

# コンビニの24時間営業の必要性

社会B 1班 飯居 海渡 池田 潤平  
森 陽人 米谷 真治

## 1. はじめに

私たちは流通業について知識を深め、その社会的な意義について考察するため、デパート、スーパー、コンビニなどについて調べました。その中で高校生の私たちにとって一番身近だと感じたコンビニについての研究を進めることにしました。

## 2. 調査①

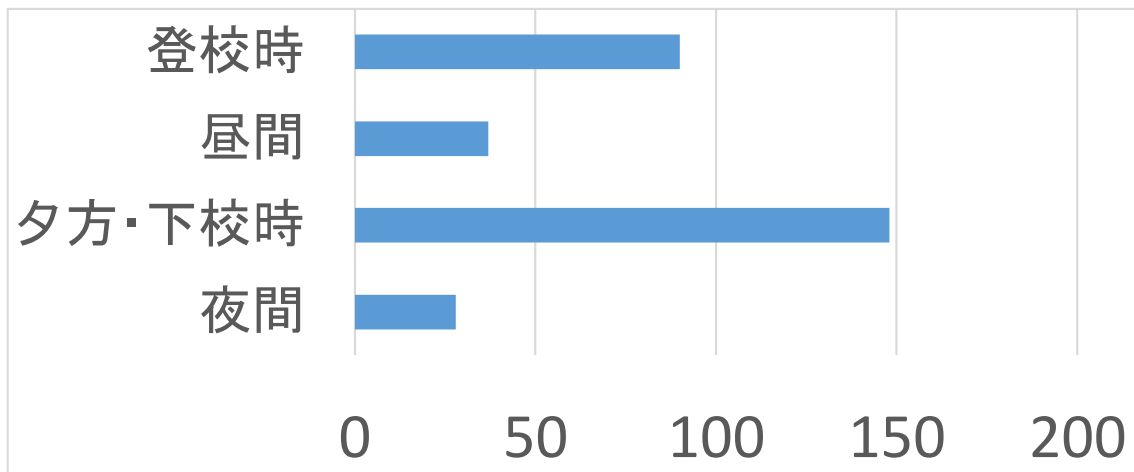
まず私たちは、コンビニがどれほど同年代の人にとって身近なものなのかを調べるために高津高校二年生にアンケートを実施しました。

その結果、利用する時間帯については、登校時に利用する人が90人、昼間に利用する人が37人、夕方に利用する人が148人、夜間に利用する人が28人でした。

週に1～2回利用する人が一番多い、夜間の利用者が他の時間帯と比べて非常に少ない、ということがわかりました。

これらの結果を受けて、夜間の利用者が非常に少ないことに着目し、コンビニの24時間営業の必要性について考察を深めることにしました。

コンビニを利用する時間帯について



## 調査②

コンビニの24時間営業について様々な書籍を読んで、そのメリット、デメリットについて意見を集めました。

また、私たちはインターネット上でも情報収集を行いました。

そして、メリット、デメリット両方の側面について意見を交し合い、コンビニの24時

間営業の是非について考えました。

### 3. 結果

24時間営業を行うメリットとしては、早朝の開店準備をしなくて済む、急な買い物にも対応できる、夜間でもコンビニを必要としている顧客はいる、自然災害が発生した際にいつでも被災者に食料を提供できる、などがありました。

デメリットとしては、夜中は強盗に狙われやすい、利用者の車の騒音などが近隣の住人に迷惑をかけている、などがありました。

日本のコンビニエンスストアや飲食店などの、フランチャイズ (FC) 加盟している業者による任意団体である全国 FC 加盟店協会は、24時間営業に対して否定的な立場として、①営業時間は、事業経営者の経営権の重要な部分であり、決定権は個々の加盟店にあり、本部が強制する現在のシステムは改善すべき。②24時間営業は加盟店オーナーやその家族の犠牲で成り立っており、その利益を本部が享受している、という事態になっている。③商品の配送、店舗内の陳列・改装・清掃など、深夜営業方式の優位性があることは認められ、深夜の防犯・安全な「駆け込み」場所という役割もあるが、17時間営業でうまくいっている事例もあるため、本当に24時間営業は必要なのか、との見解を示しています。

一方で、三菱創業100周年の記念事業として、三菱グループ各社の共同出資により設立され、政府、官公庁、地方公共団体等から委託される各種調査研究を受け持つ、三菱総合研究所は、デメリットこそ前者と同じオーナーの心労について触れていますが、メリットとして、売り上げの向上につながっている、雇用機会の拡大につながっている、近隣の防犯などに貢献するなどして、社会的な貢献度が高い、と述べています。

### 4. まとめ

アンケートの結果から、夜間にコンビニを利用する人が少ないことを受け、コンビニの24時間営業は必要ないのではないかと考え、調査を進めてきましたが、その中で、私たちが知らなかった24時間営業を行っている理由に触れ、コンビニの24時間営業は必要な面もあるという結論に至りました。デメリットの防犯については、警備会社と協力して防犯体制を整備し、騒音については駐車場に車のアイドリングストップをお願いするパネル等を設置するなどすることで、軽減できると考えました。

また、加盟店オーナーの一方的な負担でコンビニの24時間営業が成り立っているという指摘については、本部と各加盟店とが定期的に、対等な立場で話し合うことで、少しずつでも改善の方向へ向かうのではないかと考えました。

今回の研究を通じて、コンビニの24時間営業が抱えている様々な利点や問題点に触れることができました。その中で、私たちは意見を交わしあい理解を深めることができました。

(参考文献 新版 セブンイレブンの経営史)